

小笠原小学校は**母校**です。



日本あるある



「あるある」つながりで、視野を広げて、日本人にとっては当たり前のことなのに海外では「不思議〜い」となる「日本あるある」をお届けします。でも、そんな日本って「素晴らしい」と思うのです。

日本の学校「あるある」続き

… 給食の充実・子どもだけで登下校をする・実技教科が充実

その3 給食

海外の学校の昼食の様子はいろいろな形があります。欧米諸国の多くはカフェテリアでランチとなることが主流のようです。教室は学ぶところなので食べる場所ではないということで、教室で昼食を食べることが禁止されている国もあるそうです。また、昼に一度、家に戻ってくるという国もあるとのこと。



日本の給食は、欠食児童をなくすことを目的に始められました。欠食児童はほぼなくなっていますが、今でも、学校に行けば、すべての子どもがバランスのとれた栄養がとれるという制度になっています。多くの日本人は、小学校の給食を通して「栄養のバランス」を学びます。子どもの「食育」という面でも給食は大きな役割を果たしています。海外の学校では、子どもたちに食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる内容の指導はほとんどないようです。「しつけ」は学校ではなく、家庭でするものと線引きがされているということもできますが…。

また、みんなで揃って「いただきます」と食べ始めるのも海外ではあまり見ない光景のようです。

その4 登下校

日本の学校生活のなかで、欧米人が最も驚くのは、日本の子どもの登下校だそうです。日本では、小学生になったら、子どもだけで登校するのは当たり前のことです。欧米では12歳くらいまで親が送り迎えをするのが一般的なので、小さな子どもが、子どもたちだけで、または一人で、歩いて（中には電車やバスに乗って登下校する子もいます）登下校の様子を見て、とてもショックを受けるようです。



日本の治安のよさが、この登下校に表れています。

その5 5教科以外の科目が充実している

日本は欧米の国々に比べて、音楽、家庭科、体育、図工・美術の実技系の教科の内容がとても充実しているといわれます。家庭科で調理実習をさせるような国は、欧米ではあまりないようです。体育でいろいろな種目を指導し、音楽でもリコーダーだけでなく、いろいろな楽器に挑戦できるというのも欧米では珍しいことだそうです。



美術では、繊細な色の表現が日本の伝統として自然に受け継がれています。海外の子どもの作品は、原色そのまま使われていることが多くあります。海外のお菓子には、こんな色のお菓子を食べて大丈夫かと思うものがよくあります。

日本は授業時間が長いといわれます。その分、充実した内容の授業が多いのだと思います。